

子規の畫

夏目漱石

青空文庫

余は子規しきの描かいた畫えをたつた一枚持つてゐる。亡友の記念かたみだと思つて長い間それを袋の中に入れて仕舞つて置いた。年數ねんすうの經たつに伴つれて、ある時は丸まるで袋の所在を忘れて打ち過ぎる事も多かつた。近頃不圖ふと思ひ出して、あゝして置いては轉宅の際などに何處へ散逸するかも知れないから、今のうちに表具屋へ遣やつて懸かけ物のにでも仕立てさせやうと云ふ氣が起つた。澁紙しぶしめの袋を引き出して塵はたを拂はいて中を檢しらべると、畫は元の儘しめ濕つぽく四折よつをりに疊んであつた。畫の外に、無いと思つた子規の手紙も幾通か出て來た。余は其そのうち中から子規が余に宛てゝ寄こした最後のものと、夫それから年月の分らない短いものを選び出して、其中間に例の畫を挾くわん

で、三を一纏ひとまとめに表装させた。

畫は一輪花瓶いちりんざしに挿した東菊あづまぎくで、圖柄づがらとしては極めて單簡たんかん

な者である。傍わきに「是は菱しほみ掛かけた所と思ひ玉へ。下手まづいのは病

氣せみの所爲だと思ひ玉へ。嘘だと思はゞ肱ひじを突いて描かいて見玉へ」

といふ註釋が加へてある所を以て見ると、自分でもさう旨いとは

考へて居なかつたのだらう。子規が此畫を描かいた時は、余はもう

東京には居なかつた。彼は此畫に、東菊あづまぎく活けて置きけり火の

國に住みける君の歸り來るがねと云ふ一首の歌を添へて、熊本迄

送つて來たのである。

壁に懸けて眺めて見ると如何にも淋さびしい感じがする。色は花と

莖ガラスと葉と硝子の瓶とを合せて僅みいろに三色しか使つてない。花は開い

たのが一輪に蕾が二つだけである。葉の數を勘定して見たら、凡^{すべ}てゞやつと九枚あつた。夫^{それ}に周圍が白いのと、表装の絹地が寒い藍なので、どう眺めても冷たい心持が襲つて來てならない。

子規は此簡^{かんたん}單な草花を描^{えが}くために、非常な努力を惜しまなかつた様に見える。僅^{みくき}か三莖の花に、少くとも五六時間の手間^{てま}を掛けて、何處から何處迄丹念に塗り上げてゐる。是程の骨折は、たゞに病中の根氣仕事として餘程の決心を要するのみならず、如何にも無雜作に俳句や歌を作り上げる彼の性情から云つても、明かな矛盾である。思ふに畫と云ふ事に初^{しよしん}心な彼は當時繪畫に於ける寫生の必要を不折^{ふせつ}などから聞いて、それを一草一花の上にも實行しやうと企^{くはだ}てながら、彼が俳句の上で既に悟入した同一方法を、

此方面に向つて適用する事を忘れたか、又は適用する腕がなかつたのであらう。

あづまぎく

東 菊

によつて代表された子規の畫は、拙まづくて且眞面目であ

る。才を呵かして直ちに章をなす彼の文筆が、繪の具皿ひたるに浸ると同

時に、忽ち堅くなつて、穂先の運行がねつとり竦すくんで仕舞つたの

かと思ふと、余は微笑を禁じ得ないのである。虚子きよしが來て此幅このふく

を見た時、正岡の繪は旨いぢやありませんかと云つたことがある。

余は其時、だつてあれ丈だけの單純な平凡な特色を出すのに、あの位

時間と努力を費さなければならなかつたかと思ふと、何だか正岡

の頭と手が、入らざる働きを餘儀なくされた觀がある所に、隠し

切れない拙せつが溢あふれてゐると思ふと答へた。馬鹿ばかり律氣ちぎなものに厭味いやみ

も利^きいた風もあり様はない。其處に重厚な好^{かう}所^{しょ}があるとすれば、子規の畫は正に働きのない愚直ものゝ旨さである。けれども一線一畫の瞬間作用で、優に始末をつけれべき特長を、咄^{とつ}嗟^さに辨ずる手際がない爲めに、已^{やむ}を得^えず省略の捷^せ徑^{けい}を棄てゝ、几帳面な塗抹主義を根氣に實行したとすれば、拙^{せつ}の一字は何うしても免れ難い。

子規は人間として、又文學者として、最も「拙^{せつ}」の缺乏した男であつた。永^{なが}年^{ねん}彼と交際をした何^どの月にも、何^どの日にも、余は未だ曾て彼の拙^{せつ}を笑ひ得るの機會を捉^{とら}へ得^えたた試^{ため}がない。又彼の拙に惚れ込んだ瞬間の場合さへ有^もたなかつた。彼の歿後殆ど十年にならうとする今^{こんにち}日、彼のわざ／＼余の爲に拙^{あが}いた一輪の東^{あづま}

菊ぎくの中に、確に此一拙うち字を認める事の出來たのは、其結果が余をして失笑せしむると、感服せしむるとに論なく、余に取つては多大の興味がある。たゞ畫が如何にも淋さびしい。出來得るならば、子規の此拙な所をもう少し雄大に發揮させて、淋さびしさの償つぐなひとしたかつた。

—明治四四、七、四—

青空文庫情報

底本：「漱石全集 第十七巻」岩波書店

1957（昭和32）年1月12日第1刷発行

1979（昭和54）年8月8日第4刷

入力：山田豊

校正：土屋隆

2005年9月17日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（<http://www.waozora.gr.jp/>）で作られました。入力、校正、制作にあたった

のは、ボランテアの皆さんです。

子規の畫

夏目漱石

2020年 7月12日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>